

日本の歴史

にほん こっか きげん きたきゅうしゅう
 日本国家の起源は、北九州にあったと
 せつ やまと ならけん
 する説と、大和(奈良県)にあったとする
 せつ けつろん で
 説があつて、まだ結論が出ていない。

ごせいきごろ やまとちょうてい にし きゅうしゅう
 五世紀頃には大和朝廷が西は九州から
 ひがし かんとうちほう とうち
 東は関東地方までを統治していたらしい。

こと はちせいきぜんはん へんしゅう こじき
 この事は八世紀前半に編集された古事記
 にほんしょき
 や日本書紀に書かれている。

にほん さいこ ししよ ちゅうごくたいりく
 この日本最古の史書は、中国大陸との
 こうりゅう とお ぶっきょう はちせいき
 交流を通して、仏教とともに八世紀の
 なかごろにほん つた かんじ お じょ おお
 中頃日本に伝えられた漢字に負う所が大
 きい。

とうじ にほん すす ちゅうごくぶんか せっきょくてき
 当時の日本は進んだ中国文化を積極的に
 と い はってん い い
 取り入れながら発展して行ったと言えよ
 う。

にほんじん ちゅうごくご まった こうぞう こと
 日本人は中国語と全く構造の異なる日本
 ご か あらわ さまざま くふう
 語を書き表すために様々な工夫をして
 かんじ かんたん
 漢字を簡単にした。

ひょうもじ かんじ ひょうおんもじ
 そして表意文字である漢字から表音文字
 い かなもじ ひらがな かたかな
 と言われる仮名文字(平仮名、片仮名)を
 う だ
 生み出した。

こくご じゅう ひょうげん
 これによって国語を自由に表現すること
 で き へいあんじだい きゅうせいき
 が出来るようになり、平安時代(九世紀か
 にじゅうせいき こくぶんがく ひじょう さか
 ら十二世紀まで)に国文学非常に盛んにな
 った。

^{なかんずく} 就中、^{むらさきしきぶ} 紫式部 や ^{せいしょうなごん} 清少納言 などの
^{じよりゆうさつか} 女流作家 が ^{だいかっやく} 大活躍、それぞれ
^{げんじものがたり} (源氏物語) ^{まくら} (枕 ^{そうし} の草子) 等、^{とう} 後の世に
^{つた} まで伝わる傑作を ^{けっさく} 残した。

^{じだい} この時代に ^{きぞく} 貴族は ^{とみ} 富を ^{たくわ} 蓄えて ^{せいちょう} 成長して
^い 行ったが、^{なか} 中でも ^{ふじわらし} 藤原氏は ^{てんのう} 天皇と
^{しんせきかんけい} 親戚関係を ^{むす} 結ぶことによってその ^{けんりよく} 権力を
^{ぜったいてき} 絶対的なものとし、^{てんのう} ついに天皇から ^{せいじ} 政治
^{じっけん} の実権を ^{うばう} 奪うことに ^{せいこう} 成功した。

^{いっぽうこうしつ} 一方皇室の ^{しんらい} 信頼を得た ^え 寺院の ^{じいん} 勢力は
^{きょうだい} 強大になり、^{そうりよ} 僧侶が ^{ぶりよく} 武力で ^{らんぼう} 乱暴をするよ
^{こくちあん} うになって、^{みだ} 国治安は乱れてきた。

^{きぞく} そこで貴族は ^み 身を守るために ^{まも} 武芸を ^{ぶげい} 身に
^{もの} つけた者を ^{しんぺん} 身边に ^{さむら} 「侍わ」せた。

これが ^{さむらい}侍、^{すなわ}即ち^{ぶし}武士の^お起こりである。

武士は世の中が^{どうよう}動揺すればする程その力^{ほど}を^{りょく}伸ばして行き、ついに^{へいけ}平家、^つ次いで^{じゅう}十二世紀の^{にせい}終わりに^お源氏が^{げんじ}政治の^{せいじ}実権を^{じっけん}握^{にぎる}るまでになったにである。

ここに^{ぶけせいけん}武家政権である^{かまくらばくふ}鎌倉幕府が^{せいりつ}成立した。

^{にほん}日本の^{ほうけんせいど}封建制度の^{ほうが}萌芽である。

これが^{てんのう}天皇を^{いただ}戴く^{ちょうてい}朝廷と、^{しょうぐん}将軍を^{ちゅうしん}中心とする^{ばくふ}幕府という^{せいじ}政治の^{にじゅうこぞう}二重構造の^{はじ}始まりと^い言える。

この^{しく}仕組みは^{めいじいしん}明治維新（^{いちはちろくはちねん}一八六八年）で^{えどばくふ}江戸幕府に^{しゅうしふ}終止符が^う打たれるまで^{つづ}続き、^{にほん}日本の^{せいじ}政治の^{ひと}一つの^{とくしょく}特色となっている。

あしかがし むらまちばくふ
 足利氏の室町幕府（十四—十五世紀）の
 した だいみょう りよく の せいじ
 下では大名が力を伸ばし、やがて政治
 じっけん あらそ あ せんごくじだい おとず
 実権をめぐって争い合う戦国時代が訪
 れる。

ないらん おさ てんか とういつ
 この内乱を収め、天下を統一したのは
 おだのぶなが とよとみひでよし とくがわいえやす
 織田信長、豊臣秀吉、徳川家康という
 さんにん せんごくだいみょう
 三人の戦国大名であった。

まえにしゃ とうじ いちだい お
 このうち前二者は統治が一代だけで終わ
 ったが、家康は大名の取締まりを厳しく
 いえやす だいみょう とりし きび
 し、士農工商という身分制度を定めたた
 しろうこうしょう みぶんせいど さだ
 め、徳川家の政治はその後約二百七十年
 とくがわいえ せいじ ごやくにひやくしちじゅうねん
 に互って続いたのである。

いえやす ばくふ え ど いま とうきょう お
 家康は幕府を江戸(今の東京)に置いたの
 じだい えどじだい よ
 で、この時代を江戸時代と呼ぶ。

この時以来、政治・経済・文化の中ちゅうしやう小は
ときいらい 京都から江戸に移った。

徳川幕府は更に、人間の平等を説く
とくがわぶくふ さら にんげん びやうどう と
きりす ときやう ひろ
きんし さこく
キリスト教が広まっていなかったので、こ
れを禁止し、鎖国をした。

この間 [かん] 中国とオランダの二国だけ
ながさき ぼうえき
がわずかに長崎で貿易をしてもよいこと
ほか がいこく こうしやう
いっさい た
いっさい た
になっていたが、他の外国との交渉は
一切絶った。

そのため日本は西洋の近代文明からは取
のこ どくじ ぶんか さか たいへい
り残されたが、独自の文化が栄え、太平
よ じつげん
の世が実現した。

この^{たいへい}太平の^{ゆめ}夢を^さ覚まさせたのは
^{いちはちごさんねん}一八伍三年に^{ぐんかん}軍艦を^{ひき}率いて^{にほん}日本に来た
^{あめりか}アメリカの^{ペリ}ペリーである。

^{きょうりょく}強力な^{ぐんじりょく}軍事力を^も持った^{しよたいこく}諸大国の^{ようきゅう}要求を
^{しりぞ}退けるわけには^いいかず、^{ばくふ}幕府は^{ついに}ついに
^{かいこく}開国をしなければならなくなつた。

^{えんえんにせいきはんつず}延延二世紀半続いた^{とくがわばくふ}徳川幕府の^{じげん}地盤はこ
^{がいそく}れを^{うちがわ}きっかけに^{がいそく}外側からと^{うちがわ}内側からの
^{あつりょく}圧力によって^ゆ揺らぎ、^{いちはちろくしちねん}一八六七年、^{ばくふ}幕府
^{せいけん}は^{てんのう}政権を^{かえ}天皇に返した。

ここに日本の封建制度は崩壊し、天皇
ちゅうしん しんせいふ たんじょう ちやうてい と ぼくふ
 中心の新政府が誕生して、朝廷都幕府
にじゅうこうぞう せいじ お つ
 の二重構造の政治は終わりを告げた。

めいじいしん よ
 これを明治維新と呼んでいる。

これ以降、日本は「西洋に追いつき、追
こ あいことば おうべいしょこく
 い越せ」を合言葉に欧米諸国の
きんだいぶんめい さんぎょう と い むちゆう
 近代文明・産業を取り入れることに夢中
 になった。

そして、諸外国との幾多の戦争を経て、
ただい ぎせい うえ きょう けいざいだいこく い
 多大の犠牲の上に今日の経済大国と言わ
あた ら にほん う
 れる新しい日本が生まれたのである。